

NPO 法人道普請人 2016 年度春期スタディーツアー報告

—日本語版(英語版と内容は同じです)—

京都大学工学部地球工学科国際コース 2 回生 (参加時 1 回生) 荒木稜香

1. はじめに

2016 年 3 月 15 日～26 日の 12 日間、ミャンマーにて NPO 法人道普請人のスタディーツアーに参加させていただきました。貴重な機会を下さりました木村先生、ツアーの全てを支えていただきました酒井様、文化面から技術面まで様々な話をして下さりました田中様、参加を快諾してもらいました両親、また、現地でお世話になりました NPO Dear Myanmar スタッフの方々、ウィントン一家、村民の方々に心からの感謝を申し上げます。

スタディーツアーに応募した動機は、現地の住民に寄り添った支援や途上国における課題とは具体的にどのようなものか知りたい、また、異文化を学びたい、と思ったからです。そして渡航してみると、知りたかった以上に多くのことを学ばせていただきました。テーマ別にまとめて報告いたします。

2. ツアーの概要

首都ヤンゴン、ピャポン近郊の農村部、バガンの 3 ヶ所を巡りました。道普請人の酒井様と田中様、そして Dear Myanmar のスタッフの方々 (Mr. AONE、Ms. Su、Mr. ルイン) がガイドをして下さりました。ヤンゴンでは、NPO のオフィスやマーケット、仏塔、建設現場などを見学しました。ピャポン近郊では、チョンチャイ村、ミンラス村、カンター村を訪問し、道直しの見学とお手伝い、村の祭りに参加、寺院訪問、小学校訪問、ウィントン一家の暮らしを体験するなどさせて頂きました。バガンでは、世界遺産に登録されているバガン朝遺跡群を見学しました。



Photo 1 シュエダゴンパゴダ



Photo 2 タナカ(日焼止)を塗ってもらう

3. 最も印象に残ったこと

このツアーで最も印象に残ったことは、夜の道直しです。

4 日目に訪れたミンラス村では、道直しの工事を毎日午後 5・12 時に行っていました。暑期の日中は気温が 40 度近くにも上るためです。昼に測量を手伝い、夜に見に行った工事は衝撃的なものでした。真っ暗な道で、20 人以上の農民が物凄いスピードで動いていました。重い土嚢を軽く持ち上げ、大量の土砂とセメントを混ぜています。子供も手伝っています。女の人は、手伝いや炊き出しをしています。

この村では、僧侶が毎日工事を見に来て、農民を激励しています。街灯が無い道に、蛍光灯を設置し、発電機を動かして工事を支援しています。燃料代は僧侶の負担です。



Photo 3 夜の道直しの様子

道直しではしばしば、工事に参加する人が段々と減っていくそうです。工事はボランティアなので当然のことだと思います。しかし、この村では、僧侶の支援のお陰もあってか、工事に参加する人数が減らないそうです。僧侶が強大な権力を持っている仏教国だからでしょうか。僧侶に見られているから、功德を積みたいからでしょうか。しかし、そうではなく、自分たちに必要だから道を作るのだ、という熱気を現場で感じました。



Photo 4 完成した道

悪路のために妊婦が搬送中に死亡してしまった、また反対に、道が整備されたおかげで雨期の通学時間が2時間短縮された、などという話をいくつも聞きました。上手くいく工事ばかりではないと思いますが、道普請人の事業が村に与えた大きな好影響を感じました。また、道に対する切実な需要を感じました。



Photo 5 直した道沿いにつくられた病院

4. 現地の住民に寄り添った支援とはどのようなものか

道直しを計画している様子や、道直しを実際に見て、具体的にどのように活動しているのかを学ばせていただきました。



Photo 6 農民は力がとても強い



Photo 7 コンクリート壁を作る工事の様子

道普請人は様々な国で事業を展開されています。ミャンマーでは、現地 NPO 団体「Dear Myanmar」への技術支援という形で事業を行っています(事業地により事情は様々だそうです)。そのため、道普請人・Dear Myanmar・村の3つが協力をして道直しを行っています。

訪れた3つの村で、打ち合わせの様子を見学させていただきました。酒井様と田中様の、なるべく現地にまかせつつ、細かく打ち合わせやチェックをしている姿が印象的でした。今回は英語で打ち合わせを行っていました。お互い非母語で会話するので、図示や英語の表現の工夫をしながら、時間をかけて確実にコミュニケーションをとっていました。軌道に乗った後は、なるべく現地に任せますが、こまめなチェックは必要だそうです。また、問題が起きたときは、道普請人側の体制の問題と捕らえ、原因を追究し、道普請人のすべき対策を立てていました。また、打ち合わせの時以外は、彼らの文化を理解し、ユーモアを持ってミャンマーの方々に接し、彼らととても打ち解けているように見えました。

また、土木は国が発展するために重要な分野だと私は思っているのですが、それに加えて教育の充実が重要だろうと感じました。ミャンマーで土木工事を行う際、高等教育がきちんとなされていないスタッフが多いため、日本人の設計したプランで建設を行うことは非常に困難である、と建設会社の方にお聞きしました。また、学校では、道普請人の事業のおかげで、通学時間が短縮され、生徒の出席率が上がったという話も聞きました。様々な分野が人々の生活には重要です。その中でも特に、土木と教育が連携し、どちらも同程度発展することが、より効率の良い発展に繋がるのではないかと思います。

5. ミャンマーの状況

ミャンマーは最近民主化が始まったばかりの国です。外資系企業の真新しい看板が都市部のあちこちに、また、訪れた農村にも外資系企業の商品がたくさんありました。また、ミャンマーを訪れる前、「BurmaVJ 消された革命(英題 *Burma VJ: Reporting from a Closed Country*)」という映画を見ました(アカデミー賞にもノミネートした作品です、是非見てみてください)。2007 年に起こった反政府デモについてのドキュメンタリーです。私が訪れたミャンマーの様子は、その映画で見たそれと全く違い、驚きました。映画の中では、反政府デモに関与した僧侶が殺され、川に浮いていました。しかし、現在では、一般のミャンマー人が SNS でアウンサンスーチーに関する記事をいくつもシェアしています。夜も人々が自由に街へ出歩いています。急速に物事が変化している国なのだろうと思いました。



Photo 8 車から見たヤンゴンの様子

また、ミャンマーのインフラストラクチャーは開発途上です。ヤンゴンでは、渋滞緩和のために円形交差点や一方通行道路が整備されていました。一方で、上水道の水は飲めませんし、時々においがします。排水溝からもにおいがします。道路はポイ捨てしたゴミと吐き出した噛み煙草のせいで汚いです。そのことを父に話すと、それが世界標準だ、多くの国がそうである、と教えられました。日本の清潔さは普通ではないし、小さな路地まで舗装されている日本のインフラ整備が驚くべきことであるかを感じました。

そして、地域によって開発度合いの差が激しいです。観光地バガンと農村部の整備の格差には圧倒されてしまいました。

バガンには、11～13 世紀に栄えたバガン朝の遺跡群があり、3000 以上もの仏塔や寺院が点在しています。バガンの街や遺跡は、観光客向けに整備されていました。欧米人や日本人が満足するような小綺麗さです。ミャンマーは外貨獲得のために観光業に力を入れてきたそうです。

一方で、訪れた村では、電気・ガス・水道が届いていませんでした。電気は、夜 18～22 時の間のみ村の発電機が稼働します。ガスはボンベ式で、水は川の水を利用し、飲料水はミネラルウォーターを購入します。娯楽施設もありませんし、病院はやっと最近できたところです。

日本のようなインフラ整備は非常にお金がかかりますし、過剰だと思います。そこまでなくてよいから、まずは必要最低限のインフラが農村部にも整備されれば、もっと住民が暮らしやすくなるのと思いました。

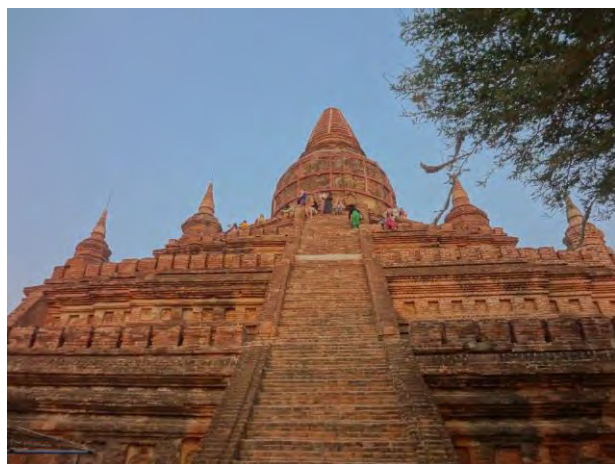


Photo 9 バガン遺跡 1



Photo 10 バガン遺跡 2

6. 異文化に触れて

はじめに空港について、タクシーでホテルへ向かったときは、道路に日本車が溢れていて「少し蒸し暑いけど、この景色は日本と似ている」と思いました。しかし、すぐにここには全く違う文化があるのだと気づきました。ミャンマーの文化について酒井様や田中様が説明してくださり、毎日が発見の連続でした。



Photo 11 ヤンゴンで日本車が走っている様子

ミャンマーの人々：私が関わったミャンマーの方々は本当に親切でした。「水はある？」「うちわ使う？」「すみません、先にどうぞ」など、たくさんの気遣いをいただきました。

特に、英語やミャンマー語で話しかけてくださるのは嬉しかったです。ミャンマー人の英語は流暢ではありませんが、ためらいなく話しかけて下さります。農村部のお祭りに参加させていただいたとき、ミャンマー語で話しかけられて戸惑っていたところ、すぐに英語が出来るお母さんが面倒を見てくだ

さり、村の方々と交流することができました。

日本ではよく、外国人に英語で話しかけられて、日本人が逃げ出している場面に遭遇します。多くの外国人にとって日本語は暗号にしか見えないでしょうから、もっと助けられたらと思います。私もビルマ文字は可愛い丸の集まりにしか見えませんでした。



Photo 12 ビルマ文字

また、道に人がいっぱいいたり、露店がいっぱいあったり、とにかく人をたくさん見ました。洋服を着ている人もいますが、伝統衣装のロンジーを着て歩いている人も多いです。ミャンマーの女の人には細身なので、特にロンジーが似合っていました。日本のように、伝統衣装が特別な服になってしまうのではなく、このように気軽に着られているのは素敵だと思います。



Photo 13 ロンジーを着た女性(と男性)

食事： ミャンマー料理は油っこいです。油で焼いて、油に浸しているような料理が多いため、毎日食べているとちょっと胃がしんどかったです。しかし、味はおいしかったので、たくさん食べてしまいました。また、バナナなど熱帯系の果物は、日本よりもずっと甘くておいしいです。レストランに行くと、熱いお茶が出てきます。はじめは「蒸し暑いミャンマーで熱いお茶？」と思いましたが、飲むと汗が出てきて涼しくなりました。



Photo 14 ウィントン家でご馳走になった昼食



Photo 15 モヒンガー

(素麺のような米麺に、鯰や野菜を煮込んだスープがかかっています。美味しい)

7. さいごに

12 日間のミャンマー滞在は、本当に面白く、楽しく、土木の知識のみならず、ミャンマーの生活文化など、たくさんのことを勉強させていただきました。このレポートには全てを書き切れていないほどです。さらに聞きたい方はご連絡ください。学んだことを、将来やこれからの勉強にいかしていきます。

また色んな場所に旅がしたくなりましたし、ミャンマーを再訪したいと思いました。またあの熱気に包まれたいです。是非みなさんもミャンマーを訪れてみてはいかがでしょうか。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

チェーズーティンバーデー！



Photo 16 チャンチョイ村 早朝のマーケットの様子

Report of NPO Michibushin-Bito (CORE) 2016 Spring Study Tour

—English version (the contents is consistent with Japanese version)—

International Course in Civil Engineering, Faculty of Engineering, Kyoto University

Ryoko ARAKI

1. Acknowledgements

From 15th to 26th March, for twelve days, I joined a study tour of NPO Michibushin-Bito (English name: CORE) in Myanmar. First I would like to express my appreciation to professor Kimura, Ms. Sakai, Mr. Tanaka, my parents, NPO Dear Myanmar staffs (especially Mr. Aone, Ms. Su and Mr. Ruin), Wo Win Ton family and villagers, all the people who supported me. Thank you very much for giving me precious opportunities and experience.

The reasons why I wanted to join this program are mainly (1) to see an activity of CORE in order to learn how to support people, (2) to know what challenges and opportunities there are in developing countries and (3) to experience different culture. Then I went to Myanmar to find I've learned much more things than I expected. There are so many things that I want to write here, and I tried summarizing what I had felt and thought.

2. Overview of the Study Tour

During the 12 days trip, I mainly visited three cities: Yangon, villages around Pyapon and Bagan. Ms. Sakai and Mr. Tanaka from CORE, and staffs of Dear Myanmar kindly guided me.

In Yangon, I visited many places; the office of CORE and Dear Myanmar, Bogyoke Market, Shwedagon Pagoda and some construction sites. After that, visited Kyonkyaik, Min Las and Khan Thar village around Pyapon. In the villages, I did some activities; visiting road repairing sites, joining a festival, visiting temples, visiting Wo Win Ton's house and a primary school etc. Lastly visited Bagan where is famous for its world heritage site.



Photo 1 Shwedagon Pagoda



Photo 2 Trying Tanaka (sun block)

3. The Most Impressive Thing

The most impressive thing for me was road repairing at night in Min Las village.

In the village, road repairing is being done from 5p.m. to 12p.m. every day because temperature reaches about forty degrees Celsius in daytime. On the fourth day of the tour, I helped scaling road length in daytime and revisited the site at night. And the scene I saw there was really impressive. On the dark road, more than twenty villagers were working vigorously. They were lifting heavy do-nou (sandbags) easily as if it were light, and mixing a large amount of cement, sand and gravel. Not only men but also children are working. Women also working and some are making meals for workers.

In this village, a monk observes the repairing and encourages villagers every day. Moreover, he set lamp beside the road where is without street lamps and electricity. He also brings generators and pays the fuel cost.



Photo 3 Road repairing at night

It is often the case that a number of workers decreases as time goes on because they have to do the road repairing as a volunteer work. However, in the village, I heard that the number does not decrease very much. Is it because monks have strong power in this country? Or they just want to accumulate good deeds so that salvation could be earned? I didn't think so. Villagers' enthusiasm and monk's active support were telling to me that it was because they really need good roads. Ms. Sakai told to me that before the repairing a pregnant woman dead on the way to a hospital partly because the road was in bad condition.



Photo 4 A hospital built after road repairing

I heard some stories about positive changes by roads. For instance, after the repairing, commuting time to elementary school has shorten by two hours and a half. I guess everything does not always go well in business but I felt great positive impact on villages by an activity of CORE. Also felt again villagers' strong demand on good road by this story.



Photo 5 Repaired road

4. How does CORE support people

In Myanmar, CORE is providing technical support to NPO Dear Myanmar (their business style is different from country to country). Road repairing requires cooperation of CORE, Dear Myanmar and a village.



Photo 6 Farmers are so strong



Photo 7 Making concrete shields

I was given chance to see several meetings of them in villages I visited. I learned a part of the way how CORE support people. Ms. Sakai and Mr. Tanaka, CORE staffs, were leaving many things about repairing and planning to Myanmar people so that villagers would be able to repair the road again by themselves in future. They were

trying to communicate surely using understandable expressions and pictures because they were talking mainly in English which is not mother tongue for each other. After business gets on track, Dear Myanmar and villagers mainly proceeds it and CORE observes and communicates with them. If problem occurs, CORE thinks it is their responsibility and tries to find out the cause, then makes a plan to avoid it happening again. Also, CORE seems to be successfully getting along with Myanmar people with their humor.

In addition to that, I thought cooperation of engineering and education might be important to develop a country. One Japanese worker in Myanmar said they had some problems in their bridge construction because not many workers have got good command of engineering even though they had given higher education. Another example is that I heard that CORE project raised an attendance rate of school shortening the commuting time in the result of repairing the road. So in my opinion, there are so many important fields to improve our living but especially engineering and education should be extremely important, and should collaborate with each other and develop to the same extent for more efficient development.

5. Rapidly Changing Myanmar

Many of you might know that Myanmar has just started its democratization. I saw there are many signs of foreign firms in cities and many goods of them even in small villages.

I watched an Academy-Awards-nominated documentary movie which is about 2007's demonstration in Myanmar before visiting; the title is "*Burma VJ: Reporting from a Closed Country*". What I witnessed in Myanmar during this trip was so different from what I saw in the movie. In the movie, a monk was killed and floating in a river. However, now, ordinary people are sharing articles about Aung San Suu Kyi through SNS. Unlike in the movie, today's people are going out freely at night. I thought Myanmar is a rapidly changing country.



Photo 8 The city Yangon from a taxi window

Infrastructure in Myanmar seemed to be under developing. Some helpful technologies are applied in Yangon city such as roundabout intersection and one-way traffic in order to ease traffic congestion. On the other hand, water supply and sewerage system are not very good. There are many chewing tobaccos and plastic refuses thrown away on roads. I told about this to my father and he said it is the world standard condition and it is very usual thing. Then I found that Japan was abnormally clean, and it was so surprising that almost all roads were paved in Japan. I can't decide which is good because pavement costs a lot and can cause some problems. What I want to say is that I felt a big difference.

One more shocking thing for me was a difference between infrastructure in villages and Bagan.

In Bagan, there is a famous historic remain; remain of Bagan dynasty which flourished during 11 to 13c. It consists of more than three thousands of pagodas and temples, and they and the town are well maintained and cleaned in order to attract tourists over the world.

On the contrary, I heard that there are no electricity, no gases and no water supply in many villages. In a village I visited, if you want to use electricity, you have to wait until 6 p.m. when a generator of village starts working, and have to finish your work by 10 p.m. when it stops. When cooking, people use gas cylinders. When you need water, you draw water from a nearest river. A hospital has just built last year.

I hope infrastructures will be more developed in village areas. I don't think infrastructure like in Japan is good because it is excessive and costs extremely much money. I think infrastructures which really help villagers would be great. I want to be an engineer who constructs such infrastructure and am finding the way to realize it.



Photo 9 A pagoda in Bagan 1



Photo 10 A pagoda in Bagan 2

6. Touching Myanmar Culture

When I arrived to Myanmar, I felt like I had seen here because there are so many Japanese cars on the way to go to a hotel. However, I soon realized that I was in a totally different culture. Everything was new and exciting for me with kind explanation and guidance from Ms. Sakai and Mr. Tanaka.



Photo 11 Japanese cars in Yangon

Myanmar people: Myanmar people were really kind. “Do you need water?”, “Please use this fan, it’s too hot.”, “I’m sorry, after you”... they helped and relieved me a lot with their kindness.

Especially, what I was happy was Myanmar people kindly spoke to me a lot. They speak English not fluently but without hesitation. When I joined a festival in a village, I was nervous surrounded by Myanmar people because I couldn’t understand Myanmar language. However, soon one woman came to me and took care of me. Yes, she was able to spoke English. Thanks to her kindness I was able to join the festival smoothly and to communicate with villagers.

I'm afraid to say but I often see Japanese people being afraid of and running away spoken to by foreigners in Japan. From now on, I would like to help foreigners more when I'm available because perhaps Japanese characters seem to be like a code for foreigners. For me, Myanmar characters were like a group of cute small circles...



Photo 12 Myanmar character

I was surprised to have seen many people are walking around the town. Some were sitting on the road and some were running a shop besides the road. Some were wearing western clothes and some were wearing Longyi, which is a traditional clothes in Myanmar. It really suited especially to Myanmar woman (most of Myanmar women are so slender!). Longyi is so beautiful and easy to put on, so I hope it will not be a special clothes for a special day unlike kimono in Japan.



Photo 13 A woman with Longyi

(oh, there was a man too in the photo)

Foods: Myanmar food was oily! It was like fried ingredients are soaked in oil. But the taste was really good!! I got a little bit fat having a lot of Myanmar food. Fruits were more sweet and delicious than Japanese one.

When you go Myanmar restaurant, you may see a hot tea on a table. At first I thought why hot because climate in Myanmar is hot and humid. I drank it to find the reason. The hot tea made me sweat, and the sweat cooled down me.



Photo 14 Delicious lunch in Wo Win Ton's house



Photo 15 Mohinga
(Noodle made of rice in a soup of vegetables and eels)

7. Epilogue

Overall, I had great time in Myanmar.

Twelve days experience in Myanmar taught me many things, not only engineer's knowledge but also cultural things. Actually I couldn't write all things I felt, I only wrote here some essences. I would like to study and work harder based on this experience.

Finally, I became eager to travel around the world and visit Myanmar again. I hope you also became interested both in the activity of CORE and Myanmar.

Thank you for reading.

Chezue tin ba dae!!



Photo 16 In the early morning, at the market of Kyonkyaik village